

西小は 大きな 家族

Family

～校長のたわいもない独り言・その2～

令和2年2月25日（火）No.54

発行人

もしかしたら桃源郷マラソンも中止
かな？えーっ(T_T)の川崎先生

★榊形中学校あいさつ運動 2/17（月）&18（火）★

西小卒業した中学1年生が、二日間の朝あいさつに来てくれた。何とも久しぶりで懐かしい顔ぶれだ（とは言っても、昨日会った&先週会った&定期的によく会う子たちも多いが(^.^)）。しかし制服を着ると何とも大人っぽい。やっぱり小学校と中学校では、その振る舞いからして歴然とした差がある。成長するってこういうことなんだよね。大勢が校門に立っていると、その懐かしさにすぐにまとわりつく小学生、その一方でいつもと違う雰囲気戸惑う1年生。その全てが微笑ましい(=^・^=)。

●6年生に感謝する会 2/20（木）●

6年生の存在の大きさが嫌と言うほどわかった。もちろん全校の前での自信にみなぎった堂々とした態度や言葉、それに演奏（ヒップホップ風の演奏含め）や合唱は当たり前。これは今までの6年生の様子を見ていれば、ある意味容易に想像できる。それよりも感心したのは、6年生が安心してすべてを出し切る場が西小にはあるということと、それを創り上げてきたのが他ならぬ6年生であるということ。なぜなら、〇×ゲームでも猛獣狩りでも、そのゲームの時に下級生がみんな6年生の周りに集まり、6年生を頼っている&慕っているのだから。こんなにも好かれているのだから。

6年生に感謝する会は、6年生という存在の大きさを再確認する場でもあった。やっぱり抜けた後の穴はとっても大きいんだろうなあ。

でも、会が終了後の5年生のテキパキとした片付けの様子を見ていたら、きっと5年生がその穴を埋めてくれると心から確信した。これが伝統なんだ。頼むよ5年生、(^o^)

◆もう春かな～と思ったらまた寒い、そしてすぐ暖かい・・・からの～雑感◆

●”校長先生、これメガネがくもらないマスクです”と言って6年生男子が差し出してくれたのは、一見何の変哲もない普通のマスク（に見える）。ところがこれ、よくみると、通常は鼻の形に合わせるためのガイドが、上だけでなく真ん中にも一本入っている。こんなので？と思ってつけてみると、これがいい！！メガネがくもらない！！おーっ、感動！！。でも今はどこに行っても売ってないんだろうな～(T_T)。

●”校長先生、これ何に見えます？”と4年生女子が差し出した一本の枝。”うーん、タツノオトシゴかな？””えーっ、すごい！！”いや、スゴイって言われても、ただ見たまんま言っただけだし。”これあげます””あっ、あ、ありがとう”。枝をもらった川崎でした(^.^)。

●郵便ポストに手紙を投函しに行く。その帰り、給食センターの車が通りかかり、中から顔見知りの方が手を振ってくれる。笑顔で会釈する。陽気もポカポカで気持ちもポカポカになる。足取り軽く学校に戻る。体育館の入り口で1年生がドアが開くのを待っている。遠くから手を振ってくれる。手を振り返す。さらにポカポカになる。一人ニヤニヤしながら校長室にもどる。何げない一日の何気ない瞬間にたまらなく癒される。